

彩の国資源循環工場による環境影響調査

彩の国資源循環工場と環境を考えるひろば ●加藤 晶子

1. 「彩の国資源循環工場」と「環境整備センター」からの汚染

「彩の国資源循環工場」は、埼玉県の所有地を借りた9社からなる産業廃棄物処理施設群で、埼玉県的一般ゴミの埋め立て最終処分場である「環境整備センター」(約90ha)の敷地内にある。(図1)

この周辺は、三ヶ山^{みかやま}という三方を山で囲まれた台地であり、周囲からは山で遮られた高台である。荒川の支流である塩沢川の最上流に位置するため、いったん水系の汚染があると、直接的には塩沢川を通じて荒川にも汚染がおよび、埼玉県南部と東京都民の水道水の取水地を通じて、人々への影響が考えられる。実際、2006年には、この中のガス化溶融炉(オリックス資源循環)から鉛とホウ素の汚染漏れが発生し(発覚したのは翌年)、ダイオキシン値が基準値を超えた。三方を山で囲まれているため、周辺の地下水と塩沢川の水源地は、これらの山が溜め込んだ雨水である。なお、吉野川、五の坪川(深沢川)、兜川(小川町)は、三ヶ

山の外側に位置し、廃棄物埋め立てと産廃工場群からの影響が心配される。

2. 「彩の国資源循環工場」の背景

2007年1月に開催された、首都圏ゴミゼロ型都市推進協議会による「東京圏におけるゴミゼロ型都市への再構築に向けて」の資料(資料1)でもわかるように、首都圏で発生する大量の産業廃棄物を処理する受け皿として、複数の大型産業廃棄物処理施設が計画されており、「彩の国資源循環工場」はその1つである。

また、環境省の「廃棄物の広域移動対策検討調査及び廃棄物等循環利用量実態調査報告書」(資料2)でわかったのは、埼玉県は産業廃棄物流入が全国1位、という事実であった。「彩の国資源循環工場」のような大型複合産業廃棄物処理群が、その一翼を担っていることは一目瞭然である。

しかも、埼玉県は廃棄物埋め立て最終処分を県外に依存しており、このことを理由に、埼玉県は第Ⅱ期事業を推進しているが、本末転倒である。すなわち、首都圏(主に東京都)の産業廃棄物を担う中間処理施設があるから、その最終処分を県外に出さなくてはいけなくなるので、出したくなければ、受けなければ良いのである。

これは、まさに産業廃棄物の広域化の悪循環で、埼玉県という東京都の辺境から、さらに、東北、北海道へと、危険なものを押しつける構図となっている。日本の廃家電などを中国やアジアへ押し付けているのも同じ構造である。

3. 工場周辺の水質調査結果： オクタダイアグラムでの分析

私たちは、工場周辺の河川と地下水の特徴を知るために、水質の8項目*1について、公定法で専門機関に分析を依頼し、外部協力者の先生にそれらを基にオクタダイアグラムを作成していただいた。オクタダイア

■ 彩の国資源循環工場と環境を考えるひろば

「生活クラブ生協」を母体とする地元の「市民ネット」から2005年に独立。現在会員数15人。



●助成研究テーマ

彩の国資源循環工場による環境影響調査

●助成金額

2009年度 30万円

*1 塩化物イオン (Cl)、炭酸水素イオン (HCO3)、硫酸イオン (SO4)、硝酸イオン (NO3)、ナトリウムイオン+カリウムイオン (Na+K)、カルシウムイオン (Ca)、マグネシウムイオン (Mg)、鉄イオン (Fe) の8項目

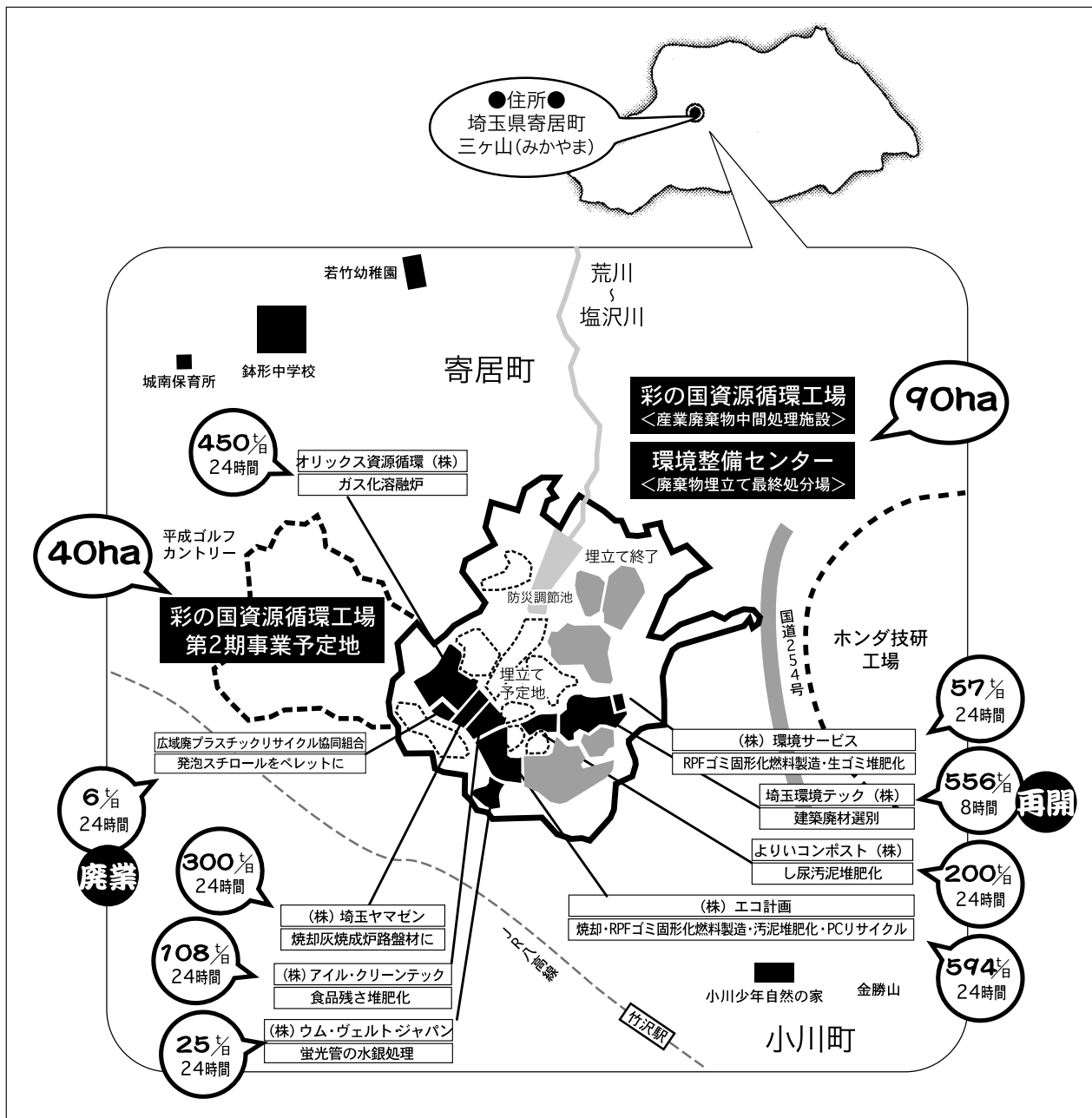


図1 彩の国資源循環工場と環境資源センターの全体図

グラムとは、前述の8項目の物質を八角形で表し、その大きさとゆがみ方で、水質の傾向をとらえるものである。その結果、「彩の国資源循環工場」と「環境整備センター」のある埼玉県寄居町三ヶ山周辺の河川と地下水は、4つのパターンに分けられ、さらに大きくりに3つに分けられた(図2)。

1つ目は三ヶ山周辺の地山の水質と考えられる小さい八角形のⅡ形とⅠ形の一部、2つ目はⅠ形の左右が大きく広がった八角形で、なんらかの汚染の影響が疑われる。そして3つ目は、Ⅲ型とⅣ型で、それぞれ別の汚染の影響だということが、八角形の形のゆがみの違いでわかる。

図2では、昨年作成した水系図に、色分けしたオク

タダイアグラムをマッピングしたが、これを見ると、すでに三ヶ山～塩沢川水系が何らかの汚染が始まっていることが疑われる。

4. 毎月の水質測定から見えてきたこと

この他に、毎月1回のペースで電気伝導度、pH等の水質測定を行った。pHの測定には、パケットより精度の高い比色測定器を使用し、その他の項目はパケットを利用している。この結果を資料3にまとめたが、これから下記のことがわかる。

- 上流に処分場などのない通常の河川であれば、電気伝導度は10mS/m以下であるはずだが、「彩の国」の工場敷地内の川では、約35mS/m～70mS/mと

非常に高く、時期によって変動幅も大きい。

- また、埋め立て地の遮水シートの外側の地下水集水管が40mS/m～60mS/mなので、敷地内の川との関連性が伺われる。
- 周辺でも上流に何もない川は10mS/m台なので、これが三ヶ山周辺の本来の値だと思われる。このことから、すでに三ヶ山では、一般廃棄物埋め立てまたは産廃工場群から河川・地下水へ汚染が始まっているのではないかとと思われる。
- 水源が三ヶ山で上流に不法投棄埋め立てのある吉野川上流では、約10mS/m～40mS/mと、変動幅が大きい。不法投棄の状況は約20年前から変わっておらず、変動の原因として、上流の三ヶ山の影響も考えられるが、不法投棄からの汚染にも、「足の速い」物質もあれば「遅い」物質もあるとの説もあり、断定は難しい。
- 五の坪川支流は、水源是三ヶ山で、下流の荒川から見れば三ヶ山より上手にある。ここでの電気伝導度は、年間を通して10mS/m前後である。
- 水源が別の山であり、上流に人家が3戸しかないため、コントロールデータとしている五の坪川上流は、年間を通して15mS/m前後で、比較的きれいな値で安定している。

5. 高度になったごみ処理施設から、微量ながら広範囲の汚染

このように、オクタダイアグラムでの分析や、月々の電気伝導度等の変化から、すでに周辺地下水と河川が汚染されていると推測できるが、埼玉県が毎月1回測定している水質測定では、通常値の範囲内である。「彩の国資源循環工場」の焼却施設群は全て、ダイオキシン対策をした高温焼却炉であり、その他リサイクル施設群もそれなりの公害対策をとっている。廃棄物埋め立て最終処分場である「埼玉県環境整備センター」は、今までは1重シートで、現在埋め立て中のものは2重シートであり、安定型とよばれる素堀りではない。

だから安全かという決してそうではなく、埋め立

てによる最終処分場では、シートや配管の劣化、さらには地震など災害時のリスクがある。また「彩の国資源循環工場」では、医療廃棄物、水銀、ありとあらゆる産業廃棄物を扱っているため、周辺住民は高いリスクを背負っていると言わざるを得ない。

工場の周辺では、住民が異臭を感じることも少なくない。工場見学に来た人が、頭痛や気分が悪くなったという、途中から参加できなくなったり、翌日になって体調を崩したという話も聞く。何らかの人体に影響を及ぼす物質が環境中にあると思われる。こういった微量な大気汚染は、急激なものではなく、いつの間にか周辺環境や人体に影響するものなので、かえって恐ろしいものであると感じる。微量な有害化学物質にハイリスクの乳幼児や子ども達への配慮が必要と思われる。

6. 危険なものは辺境へおしつける構造、交付金だのみの辺境の自治体

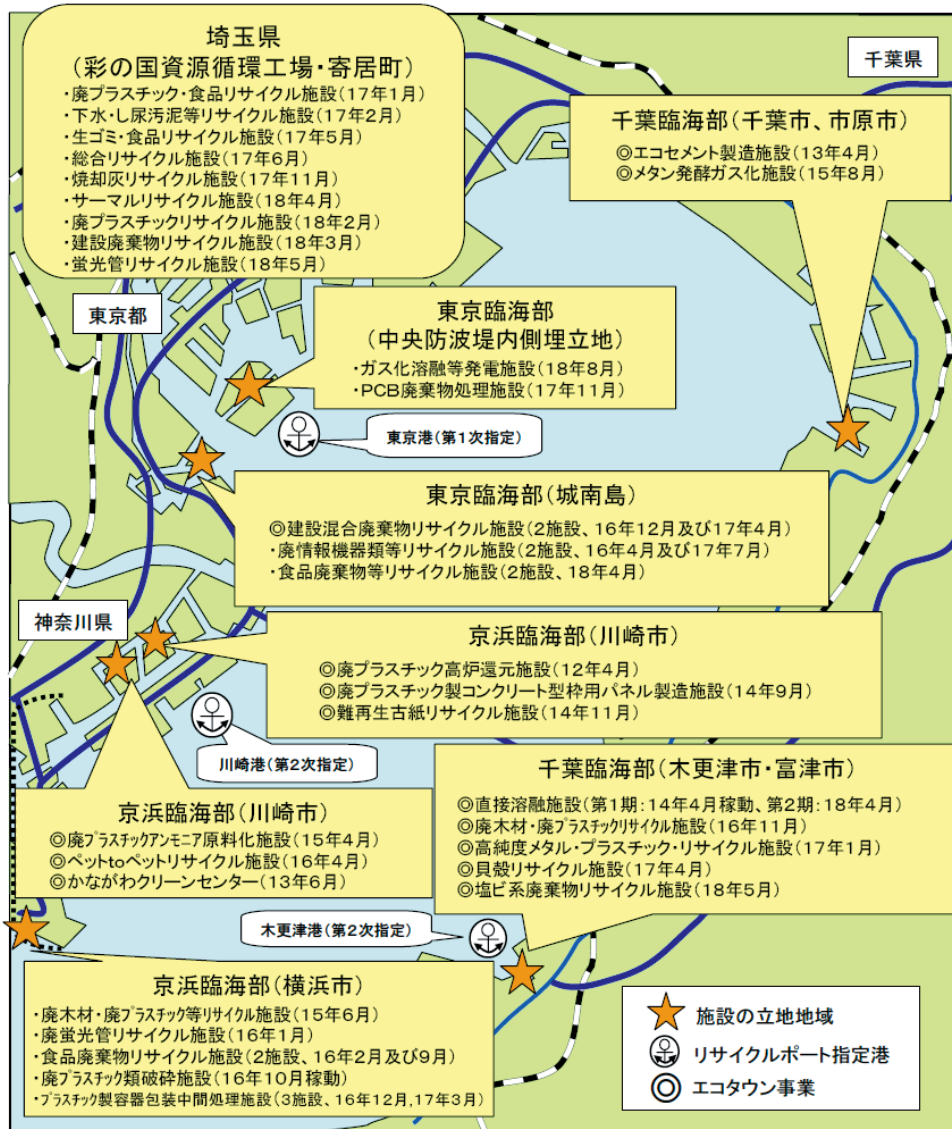
3月11日の東北関東大震災に端を発した福島原発事故では、いまだに放射能による周辺の汚染が続いている。汚染に対して国の基準は甘く、周辺住民、特に環境汚染への感受性の高い乳幼児や子どもの健康が脅かされている。これは何も放射線に限ったことではなく、多くの有害化学物質についても同様で、焼却排気による水銀など、諸外国では測定管理しているが、測定の義務のない有害化学物質が多くある。大型複合産業廃棄物処理施設群をかかえる地元住民としては、所沢ダイオキシン問題の事例もあり、とても他人事とは思えない。いつ、同様の汚染事件がおきてもおかしくない。

原発や産廃処分場を誘致した自治体は、交付金等で潤ったのかもしれないが、住民は「お上」から“安心・安全”と言いくるめられ、土地を奪われ、あげくに汚染という、悲惨な未来が待っているように思えてならない。このようナリスクを抑えるためにも、ゴミもエネルギーも食糧も、地産地消を目指さなければいけないと思う。

彩の国資源循環工場は、首都圏のゴミを集める計画

平成18年12月末現在

東京湾臨海部における主要な廃棄物処理・リサイクル施設の整備状況



平成14年4月、七都県市と関係各省から構成される首都圏ゴミゼロ型都市推進協議会は、「東京圏におけるゴミゼロ型都市への再構築に向けて」を策定し、廃棄物の適正処理及びリサイクル対策の推進に向けた取組を進めてきた。

首都圏では、京浜臨海部を先駆けとして、千葉臨海部、東京臨海部、埼玉県内陸部において、廃棄物処理・リサイクル施設の整備を進めており、37施設が稼働している。

埼玉県では、県営最終処分場(寄居町)の敷地内に「彩の国資源循環工場」として廃プラスチック、生ゴミ、建設廃棄物、サーマル等のリサイクル施設9施設を整備した。今後、隣接地において第二期事業を予定している。

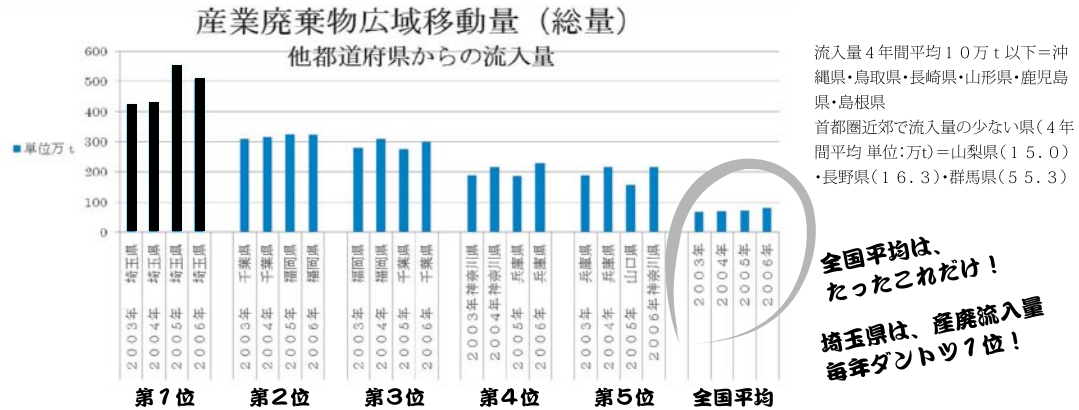
「東京圏におけるゴミゼロ型都市への再構築に向けて」～第4回フォローアップ～平成19年1月 首都圏ゴミゼロ型都市推進協議会より

資料1

びっくり 埼玉県は産廃の流入日本一！

わたしたちの住む埼玉県は、もう何年も産廃の流入量が、全国一位となっています。その流入量のほとんどを閉めているのは、東京都からの産廃で、その目的は中間処理(焼却・破碎など)です。

これは、平成14年4月から開催されている「首都圏ゴミゼロ型都市推進協議会」で計画されてきています。



埼玉県の産廃流入量の2/3以上が東京都から！

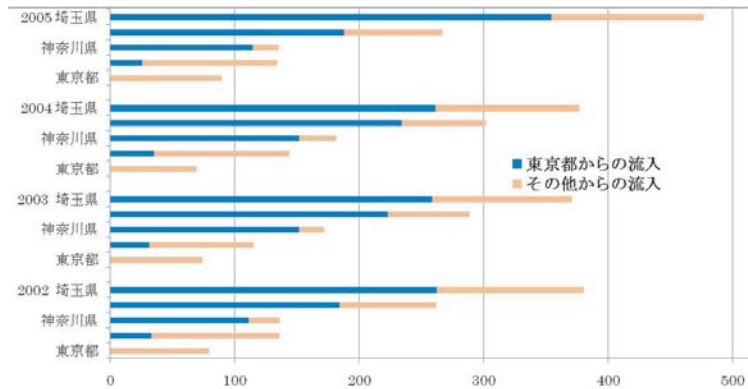
“中間処理”は、焼却や破碎、圧縮などのこと。

この影響は、約10年前までは、所沢でのダイオキシン問題として表面化しました。

その後、それを受け継ぐのが、彩の国資源循環工場なのです。

これは、なんとかしないと！

首都圏産廃都県外流入状況 <中間処理目的>



埼玉県のゴミ山 (3000m以上)



産廃は一廃と違って、わたしたちが出すわけではないし、関係ない…と思いませんか？

実は、身近に見かける、畑の中とかにある日突然できる小山、これが産廃だったりするのです。

そして、鉛や硫化水素など、土壌を汚染しているのです。

これも、なんとかしないと！

10月5日(日)開催「ゴミは環境の基本 ～埼玉県はゴミ流入日本一～」講演会+報告会
埼玉西部・土と水と空気を守る会 報告資料より

図2

